

令和6年度 Ⅰ学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	・話を正しく最後まで聞くこと。 ・自分の思いや考えを適切な言葉で表現すること。 ・言葉のまとまりを見つけて正しく読むこと。 ・長音、拗音、発音を正しく書くこと。 ・助詞「は」「を」「へ」を正しく使うこと。	・話を正しく最後まで聞く力 ・自分の思いや考えを適切な言葉で表現する力 ・言葉のまとまりを見つけて正しく読んだり、正しい表記で書いたりする力	・話したり聞いたりする際のポイントやルール、話型などを提示し、聞くときに注目できるように活用する。 ・国語の時間にスピーチをする場面を作る。また、友達と対話する機会を増やし、自分の思いや考えを伝え合うことができるようにする。 ・国語の導入の時間や宿題を活用し、言葉のプリント(長音、拗音、発音、助詞など)に取り組む。
算数	・文章を理解し、立式すること。(文章を理解できずに立式できない児童がおり、算数的課題だけではないつまずきが見られる。) ・基礎的な計算問題はできるようになってきたが、応用問題になるとつまずくこと。 ・学習したことを日常生活で生かそうとする態度が身に付いていないこと。	・問題を捉え、正しく立式する力 ・応用問題でも正確に計算する力 ・学習したことを日常生活で活用する力	・「あわせて」「ぜんぶで」「のこりは」「ちがいは」などのキーワードになる言葉に注目させたり、簡単な絵を描いたりして題意をイメージして演算決定できるようにする。 ・文章題で問われていることに下線を引かせ、意識させる。 ・適用問題や応用問題に繰り返し取り組む。 ・算数少人数担当教諭と連携して個別指導を活用する。 ・生活のなかで学習内容が生かせる場면을意図的に設定する。

令和6年度 2学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	- 漢字を正しく書くこと。また習った漢字を日常生活の分の中で正しく使うこと。 - 句読点や「」を正しく使うこと。 - 問題文の題意を正しく捉えること。 - 話を正しく最後まで聞くこと。	- 日常生活の中で正しく漢字や語句を使う力 - 正しく書き表す力 - 題意を捉える力 - 話を正しく最後まで聞く力	- カタカナや学習した漢字を使って正しい文を書くことを意識させる。 - マスのワークシートを活用することで、句読点を書く場所を意識できるようにする。 - 聞かれていることに下線を引き、問われている内容について意識できるようにする。 「質問の視点」を提示し、最後まで注意して話を聞くことができるようにする。
算数	- 数の合成や分解を正しく行うこと。また、数の仕組みの理解が足りていないこと。 - 問題文の題意を正しく捉えること。 - ものさしを正しく使ったりめもりを読んだりすること。 - 単位の大きさの概念や関係性の理解が足りていないこと。 - 時計の読み方が不明瞭であること。時間を求めること(○分後、○分前など)が苦手であること。	- 数のまとまりや仕組みに着目して考える力 - 題意を捉える力 - 既習事項を振り返りながら新たな学習に活用する力 - 時計を読む力	- ブロック、位取り板、数カードを使用して、計算の仕組みに着目できるようにする。具体物の操作を増やすことで数量把握が理解できるようにする。 「わかっていること」「きかれていること」に分けて下線を引かせる。電子黒板を活用し、図や絵で題意を正しく捉えることができるようにする。 - 授業の始めに既習事項を振り返る時間を取り入れて基礎・基本の定着を図る。 - 学校生活の中で、教員が意図的に時刻や時間で学習活動について指示を出すことを増やし、時計の読み方について理解を深める。 - 算数少人数担当教諭と連携して個別指導を活用する。

令和6年度 3学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	・話している人の伝えたいことを捉えて聞くこと。 ・既習の漢字を正しく書いたり、習った漢字を活用したりすること。 ・自分の考えや物事の様子など、主語を明らかにして書き表すこと。 ・文章の読み取りが浅いこと。	・話を最後まで聞き、伝えたいことを聞き取る力 ・漢字を正しく覚え、習った漢字を日常的に活用する力 ・自分の考えや伝えたいことを書き表す力 ・深く読み取る力	・国語でスピーチする場面や、友達と話し合う時間を取る。 ・漢字は、意味を捉えたり説明したりする機会を設定する。また、出題されそうな問題について、子供に想像させ、小テストを作成する。朝学習で、小テストを行い、理解状況を確認、次時の学習指導に生かす。 ・日記の宿題を出し、自分の考えを書くことに慣れさせる。 ・物語文や説明文などの学習において、自分の考えを友達と意見交換をしたり、考える視点やキーワードを提示したりして考えを深める。また、読書の時間を設けて、クイズを作ったり、その本の紹介をしたりして、文章を深く読み取る力を付けていく。
算数	・数の合成や分解を正しく行うこと。また、数の仕組みの理解が足りていないこと。 ・時刻と時間の計算が苦手であること。 ・数量や長さ等を単位換算して正確に表すこと。 ・題意を捉え、何を問われているのか理解すること。	・数のまとまりや仕組みに着目して考える力 ・時計や時間を読む力 ・既習事項を振り返りながら新たな学習に活用する力 ・何を問われているのか、題意を捉える力	・数カードや位取り板、数直線などを使い、数の仕組みに着目できるようにする。具体物の操作をすることで、数量把握につなげていく。 ・時計、数量、長さなど具体物の操作を増やし、数の仕組みに着目させる。 ・授業の始めに既習事項を、振り返る時間を取り入れ、基礎・基本的な学習事項の定着を図る ・「分かっていること」「問われていること」「単位」に分けて下線を引かせることで、題意を捉えられるようにする。 ・学力向上推進ティーチャーと連携して個別指導を充実させる。

令和6年度 4学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	- 漢字の定着率に差があること。 - 文章を書くことに抵抗があること。 - 書き言葉、話し言葉の区別がつけられない児童が多いこと。 - 主語述語など、言葉のきまりの理解と定着率が低いこと。 - 文章の読み取りが浅いこと。	- 漢字を正しく覚え、習った漢字を日常的に活用する力 - 主語述語など、言葉のきまりを理解し、正しく説明したり、文章を書いたりする力 - 文章を深く読み取る力	- 漢字の書き取りでは自分に合った方法で書き取りの練習を行わせるようにする。また、工夫して書き取りをしている児童を紹介する。また、定着度を見るために小テストを行う。 - 日記の宿題を出し、文章を書くことに慣れさせる。 - タブレットでeライブラリやイーボードのソフトを用いて、個々の課題となる問題練習を繰り返し練習する時間を設けることで、個々の習熟度を上げられるようにする。 - 読書の時間を設けて色々な本と出合わせる。また、文学作品や説明文の問題プリントを朝学習の時間や宿題で行わせることで文章の読み取り方を身に付けられるようにする。
算数	- 基礎的な計算力はだいぶ定着してきているが、計算速度と正確さに差が見られること。 - 倍の桁移動など数の概念の定着率に差が見られること。 - 分度器を使って角度を測れなかったり、正しく角をかけなかったりすること。 - 文章題から立式することが難しいこと。	- 数の概念をしっかりとち、基礎的な計算を正確にできる力 - 分度器やコンパス、三角定規などの道具を正しく活用して角度を作ったり測ったり、作図したりする力 - 文章題を正しく読み、正確に問題を解く力	- 学力向上推進ティーチャーと共に児童の習熟度をみとることで、復習が必要な部分を明確にする。それをもとに算数の授業の導入の時間で既習事項の復習の時間(計算貯金)を毎回設ける。 - 分度器やコンパスの使い方など、定期的に復習のプリントを用意し、家庭学習とする。また、放課後の時間を用いて補習の時間をとる。 - 問題文を読み取る際に、キーワードなどに線を引かせるなどして正しく読み取れるようにする。
理科	- 既習の内容や生活経験を基に、自分で根拠のある予想や仮説を発想し、表現すること。 - 主体的に問題を見出し、観察・実験で分かったことを基に自分の言葉で考察を書く力の差が大きいこと。	- 学習したことを日常生活で活用する力 - 日常生活と関連付けて考える力 - 既習学習を積み重ねる力 - 自分の考えを表現する力	- デジタル教科書などのデジタル教材を活用し、身近なものを例示して、日常生活と関連付けるようにする。 - 児童用タブレットを活用し、日常の経験を取り入れながら授業を行うことで、日常生活に学びを生かせるようにする。 - 自らの経験をもとに、自分が分かる言葉で文章に表していく指導を行う。「発表ノート」などで児童の考え方を共有することで、多様な考え方に触れられるようにする。

社会	・都道府県の位置と名前、方位や地図記号、縮尺などの基礎的な知識の定着に差が見られること。 ・地図やグラフ、表などから社会的事象を読み取る力が低いこと。また、資料同士を比較して考えたり読み取ったりする力が全体的に低いこと。	・都道府県の位置と名前、方位や地図記号、縮尺などの基礎的な知識 ・地図やグラフ、表などから社会的事象を読み取る力 ・資料同士を比較して考えたり読み取ったりする力	・毎時間の終わりに地図帳で都道府県の名前と正確な場所を確認する時間を取るようにする。 ・学級全体で地図やグラフ、資料を読み取る時間を設けて、基礎的な資料を読み取る力の定着を図る。また、資料同士の比較も全体で行い、徐々に個人で読み取っていけるように授業を展開する。 ・意欲を高められるような資料を用意するために、児童の興味関心に応じた記入プリントを自作する。
----	--	--	--

令和6年度 5学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	・話したり、聞いたりする活動を通して自分の考えを深めること。 ・「初め・中・終わり」の簡単な文章構成で、自分の伝えたいことを明確にして文章を書くこと。	・話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力 ・目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする力	・自分の求める情報、聞いた情報の活用方法等を明確にすることで、学習への見通しをもたせる。 ・「読むこと」の学習において、「初め・中・終わり」の文章構成を論理的に正しく捉える活動を行い、書くことの指導への関連付けを行う。
算数	・小数の乗法及び除法の計算を正しくすること。 ・乗法や除法の意味に着目し、乗数や除数が小数である場合まで数の範囲を広げて考えること。	・小数の乗法及び除法の計算が正しくできること。また整数の場合と同じ関係や法則が成り立つことを理解し活用する力 ・図や式などを用いて、2つの数量関係を比べる力	・数と計算領域に関する単元における継続的な計算問題への取り組みを行う。小数点の処理に注意して演算処理を行うよう指導する。 ・「基準にする大きさ」「割合」「割合に当たる大きさ」を明確にするために、数直線で数量関係を整理させる。 ・学力向上推進ティーチャーを活用し、個の課題に応じたきめ細かな指導を行う。
理科	・生活の中での不思議を学習と結び付け、理科の見方・考え方を働かせながら学習を進めること。 ・自然の事物・事象について興味・関心を持ち、自分の考えを表現すること。	・理科学習の基本的な流れ「問題→予想→観察・実験→結果→考察→結論」をもとに学習を進める力 ・科学的事象への興味・関心	・自ら問題を解決していく教科へ意識を変えさせるために、生活の中にある科学的な「なぜだろう？」を解決していくような学習活動ができるように計画していく。 ・単元導入の工夫を行い、児童と事象の出会いを大切にした指導を行う。

社会	・資料を正しく読み取ること。 ・社会の学習に興味・関心をもち、自分の生活と関連付けて学習を進めること。	・課題に合った資料(グラフや表等)を選択し、必要な情報を正しく読み取る力 ・学習内容と自分の生活を結び付け、社会的な見方・考え方を働かせて学習を進めていく力	・始めは課題に合った資料を教師が提示し、学習を進めていく。段階的に児童が教科書や地図帳、タブレット等を使用して課題に合った資料を活用しながら、学習を進めていくように計画していく。 ・学習内容に興味・関心をもち、意欲的に学習に取り組めるようにするために、学習課題と日常生活の関連に着目して学習活動を展開する。
----	---	--	---

令和6年度 6学年 授業改善推進プラン

台東区立東浅草小学校

	児童の状況及び実態を踏まえた課題	特に育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む 指導方法・指導体制の工夫
国語	- 自分の考えを話しながら伝えることはできているが、文章として表現すること。 - 目的や意図に応じて、自分の考えを伝えること。 - 既習の漢字が定着していない。	- 自分の気持ちや思いを表現する語彙を増やし、適切な文章を書く力。 - 漢字の意味を理解し、その意味に適した漢字を使用する力。また、繰り返し学習する姿勢を身に付ける。	- 文章で表現するときの文例を示したり、話し合いを通して自分の考えをまとめたりしながら指導していく。 - 繰り返し漢字の復習を行うとともに、熟語の意味を理解し、文章に適した漢字の組み合わせを選択し書けるようにしていく。
算数	- 分母が異なる分数同士の四則計算を正しく計算すること。 - 算数的な視点で文章を読み取り、立式し答えを求めること。	- 既習学習(最小公倍数・最大公約数等)との関係性に気づき、その既習内容と未習内容とをつなげて考える力。 - 文章を算数的な視点で読み解く力。	- 新しい単元に入る前に、今までの学習で関係のある既習学習の復習を、1人1台端末を使用したり、個別支援を行ったりする。 - 文章問題を解くときには、立式する前に文章の読み取りを行い、文章を算数的な視点で理解した上で学習を進めていくようにする。
理科	- 日常生活の中から理科の見方・考え方で物事を捉え、その中で見つけた「不思議」を実験等で探究していくこと。 - 目的意識をもって実験を行い、その結果をもとに自分の言葉で考察を書くこと。	- 理科に興味をもち、日常生活の中で様々な「不思議」を見つけ出す力。 - 自分の言葉で表現する力。	- 単元の導入時に日常生活の中で少しでも感じた「不思議」を取り上げ、身近な課題として学習を進めていくようにする。 - 文章で表現するときの文例を示したり、話し合いを通して自分の考えをまとめたりしながら指導していく。
社会	- 資料、グラフなどから、何が読み取れるかを判断したり、考えたりすること。 - 政治、社会の出来事などを身近なこととして考える力。	- 目的に合わせて資料やグラフを選択する力。 - 学習内容と実社会を結び付けて考える力。	- 資料を提示する際は、「どのような資料なのか」「どのようなことが分かるのか」を考え、課題と結び付けられるようにしていく。 - 学習内容と実社会との関わりを考えさせる。 - 一事象が与える影響などを予想し、因果関係を捉えさせ実社会とのつながりを考えさせる。